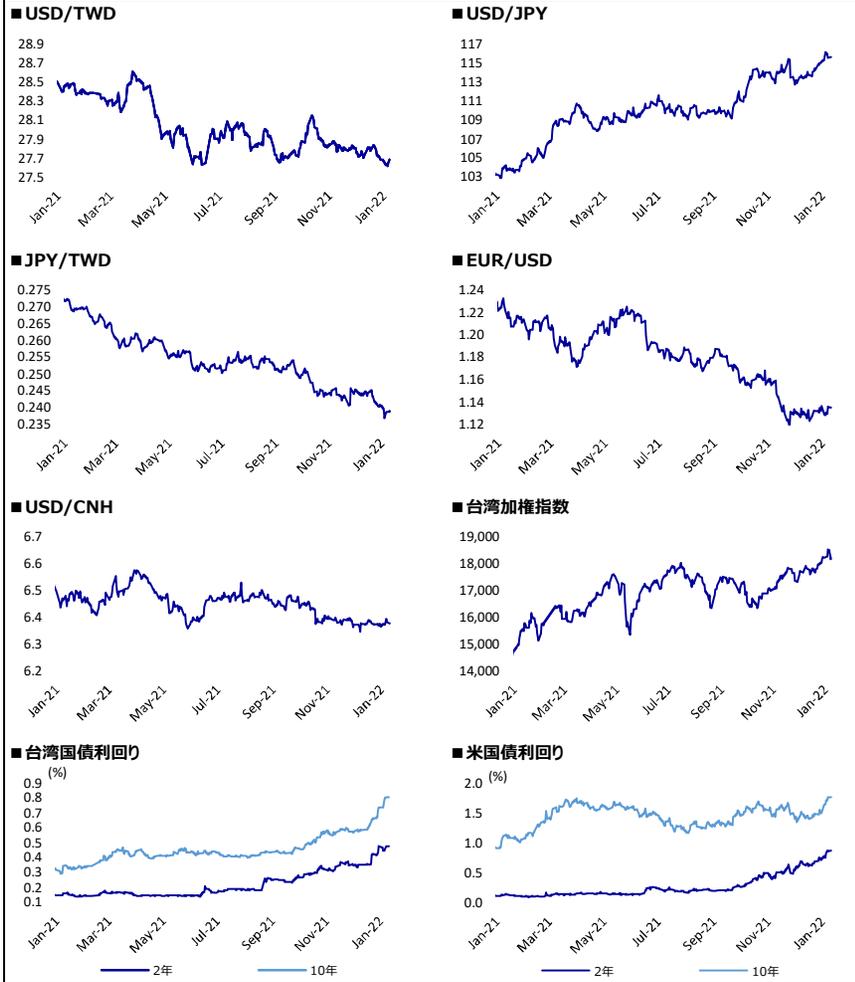


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは台湾加権指数が最高値の更新を継続する中、台湾ドル買いが進んだが、台湾株が下落すると戻された。週初1/3は27.680でオープン後、年初であり取引量は少なかったが、台湾加権指数が高値を更新する中、台湾ドル買いが優勢となり、27.62付近まで下落。1/4も台湾加権指数が最高値を更新すると、ドル台湾ドルは一時27.517まで下落したが、調整が入り27.64付近まで戻された。1/5も台湾加権指数が一時最高値を更新したものの、下落に転じると台湾ドル買いの流れは止まり、27.61付近での推移に。1/6は前日のFOMC議事録を受けて早期利上げ期待が高まったことを嫌気した米株の下落を受けて、台湾株も下落。ドル台湾ドルも27.64付近まで上昇。1/7も台湾株の下げが続くと、ドル台湾ドルは27.690まで上昇したが、高値では輸出企業のドル売りも入り上値は押さえられた。最終的には先週比ほぼ変わらずの27.690で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は299.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初1/3は正月で東京や中国等が休場で取引が少ない中、一時115円台を割る場面もあったものの、115円台前半で推移。1/4は米金利の上昇を受けて、2021年の最高値115.52を上回り、約5年ぶりに116.35をつけた。1/5はドルの急速な上昇を受けて実需の売りフローや利益確定の動きもあり、116円ちょうどを挟んでもみ合っていたが、次第にドル売りが優勢となり、115円台後半に。その後、FOMC議事録では、タカ派な内容が公表され、早期利上げ期待が高まり米金利が上昇すると、ドル円も上昇で反応したものの、米株は嫌気し急落すると、ドル円は上値を押さえられた。1/6は日本、欧州の軟調な株価の推移を受けて、上値は重く115円台後半で推移。1/7は一時116円台をつけたが、米雇用統計を前に115円台後半の狭いレンジで推移。米雇用統計が発表されると非農業部門雇用者数は予想を下回ったものの、失業率が3.9%と改善し、平均時給も上昇。労働市場がタイト化しているとの見方が強まり、米金利は上昇し、米10年債の利回りは一時1.8%台をつけたが、ドル円は利益確定の動き等からドル売りが優勢となり、115円台前半まで下落。最終的に先週比0.3%ドル高円安の115.52で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.600-27.800
米国の早期利上げ期待の高まりから米金利が急上昇に対して、世界的に株式市場は警戒しており、台湾株も調整相場となった。今週についても、台湾株は連日最高値を更新していたこともあり、調整しやすい局面にあり、ドル台湾ドルはレンジで推移するであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：115.00-116.40
先週はFOMC議事録、米雇用統計により、利上げ期待が高まり、米金利が上昇したが、ドル円については金利の上昇を嫌気した米株の動向から上値は重い。今週は米CPIの発表があるが、早期利上げをサポートする強い内容であっても、米株の上値が重い場合、ドル円も上値も限定的となるであろう。

今週の予定

1/10 (MON)	日本休場
1/11 (TUE)	
1/12 (WED)	米12月CPI
1/13 (THU)	米12月PPI
1/14 (FRI)	米12月小売売上高、米12月鉱工業生産、米12月ミシガン大消費信頼感

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。